



萩野社長

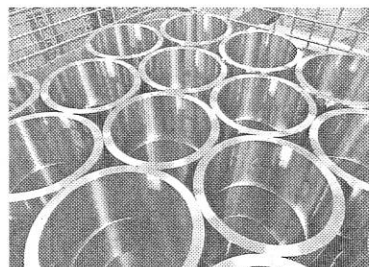
三芳合金工業は銅合金製品の有力サプライヤーである大和合金の生産を担っている。鍛造品や鍛造品、押出品を製造し、100種類以上の配合を用途に応じて使い分ける特殊銅合金のエキスパート。溶解から機械加工まで一貫で手掛け、実験・開発的な仕事が可能なほか、納期対応力に優れ、輸送や産業機械、半導体など幅広い分野に高品質な素材を供給している。

中でも世界的な伸びが見込まれる航空機向けを注力市場に位置付け、円筒形の鍛造・押出品であるブッシュをランディングギアと呼ばれる着陸装置の軸受け向けに納入。大型旅客機などで採用されており、多彩な材質・サイズを手掛ける優位性を生かすつつさらなる供給拡大を目指している。

三芳合金工業

特殊銅合金のエキスパート 航空機用素材、世界で供給拡大

航空機向けは認定取得に数年を要するケースが多



航空機の足回りなどに供給するブッシュ

物の飛散がなく、音が静かな大型鍛造プレス機を導入する計画だ。デジタル制御の新鋭機は熟練度による品質のばらつきが少なく、作業者を即戦力化できるメリットもあるという。

36

く、参入に向けたハードルの高さから競争が比較的少ない。萩野源次郎社長は「10年以上前から種まきを始め、高い品質や厳格な管理体制が求められる認定を約15社から取得している」と話す。欧州やアジアでの展示会出展など国際的

な市場開拓も奏功し、一昨年から航空分野の出荷が大幅に伸長。19年は過去最高を更新する見通しで、種まきの成果が着実に芽吹き、花を咲かせる。今年には品質や歩留まりのさらなる向上に挑む。

萩野源次郎社長は「10年以上前から種まきを始め、高い品質や厳格な管理体制が求められる認定を約15社から取得している」と話す。欧州やアジアでの展示会出展など国際的

な市場開拓も奏功し、一昨年から航空分野の出荷が大幅に伸長。19年は過去最高を更新する見通しで、種まきの成果が着実に芽吹き、花を咲かせる。今年には品質や歩留まりのさらなる向上に挑む。

な市場開拓も奏功し、一昨年から航空分野の出荷が大幅に伸長。19年は過去最高を更新する見通しで、種まきの成果が着実に芽吹き、花を咲かせる。今年には品質や歩留まりのさらなる向上に挑む。

な市場開拓も奏功し、一昨年から航空分野の出荷が大幅に伸長。19年は過去最高を更新する見通しで、種まきの成果が着実に芽吹き、花を咲かせる。今年には品質や歩留まりのさらなる向上に挑む。

- 会社データ
- ▽設立 1963年
 - ▽本社 埼玉県入間郡三芳町上富508
 - ▽社長 萩野源次郎氏
 - ▽資本金 5250万円
 - ▽売上高 約48億円 (19年9月期)
 - ▽従業員数 約100人
 - ▽主力事業 銅合金鑄造品・鍛造品・押出品

経済産業省が選定する「地域未来牽引企業」のうち、鉄鋼・非鉄金属関連の企業を紹介します。

特殊銅合金の業界で世界ナンバーワン企業になることが同社の目標。技術力や社員の人間力に裏打ちされた製品を武器に「山椒のように小粒でもピリッと辛い会社」を目指す。

強会も開催する。

(古瀬 唯)